

# 国際生殖医学会 2025 開催結果報告

## 1 開催概要

- (1) 会議名 : (和文) 国際生殖医学会 2025  
(英文) International Federation of Fertility Societies World Congress 2025 (略称 IFFS2025)
- (2) 報告者 : 国際生殖医学会 2025 大会長 大須賀 穰
- (3) 主催 : 国際生殖医学会連合 (International Federation of Fertility Societies) 及び一般社団法人日本生殖医学会、日本学会議
- (4) 開催期間 : 2025 年 4 月 18 日 (金)、26 日 (土) ~ 29 日 (火)  
現地開催及び一部指定セッションのオンデマンド配信  
オンデマンド配信 2025 年 5 月 20 日 (火) ~ 6 月 10 日 (火) 正午
- (5) 開催場所 : 東京国際フォーラム (東京都千代田区)
- (6) 参加状況 : 81 か国・地域 2,717 人 (国外 : 1,269 人、国内 : 1,448 人)

## 2 会議結果概要

- (1) 会議の背景 (歴史)、日本開催の経緯 :  
IFFS2025 は国際生殖医学会連合 (International Federation of Fertility Societies) が 3 年ごとに開催する会議であり、1953 年の第 1 回から本会議で 25 回を迎える生殖医療の分野で最も歴史のある国際会議である。当初、2019 年 4 月に開催地に立候補し、2019 年 10 月の ASRM における IFFS メンバーの投票で日本開催が決定される予定であったが、コロナ禍等の事情で決定が延期となった。その後、2022 年 9 月に本部へビッドペーパーを提出し、2022 年 9 月 16 日に正式に東京開催が決定した。2022 年開催予定であった IFFS2022 Athens がコロナ禍で 1 年延期になったことに伴い、日本開催も 2025 年となった。IFFS の日本開催は、1971 年東京/大阪開催、そして 2015 年に横浜で開催された International Meeting 以来、10 年ぶり、3 回目の開催となった。
- (2) 会議開催の意義・成果 :  
生殖医学とは、生殖現象に関わる諸課題を研究する学問領域であり、特に不妊症など生殖に関する生殖医療は、体外受精など様々な医療技術が進歩している。がん患者の妊孕性温存や受精卵を用いた遺伝子診断等の関連技術も近年進歩している一方で、提供配偶子による出産や社会的環境の整備等、課題も多く提起されている。我が国では令和 4 年から生殖医療への保険適用が始まり、妊娠・出産の希望をかなえる少子化対策としても生殖医療の重要性は高まっており、医療技術のさらなる発展、そして今後、生殖医療の果たすべき役割への期待は高まっている。生殖医学の国際学会を日本で開催することは少子化対策の観点からも非常に有意義であり、生殖医療にかかわる日本の技術を国際的に発信していくためにも貴重な機会であったといえる。
- (3) 当会議における主な議題 (テーマ) :  
この度の国際生殖医学会 2025 では「Diversity, Sustainability and Resilience in Reproductive Medicine」をテーマに掲げた。多様性、持続可能性、レジリエンスはそれぞれ様々な分野において重要なキーワードであるが、生殖医学においても、技術の多様性、人々の

背景の多様性、環境の多様性、そして各国における需要の多様性の他、地球環境に配慮しつつ最善・最新の医療を届けることが求められている。さらに、治療には不屈の精神、レジリエンスが必要であり、困難に立ち向かう力、そして政治・環境を変えていく力など、多くの困難・障壁に立ち向かう力強さの必要性を改めて認識し、高める会にすべくテーマが設定された。

(4) 当会議の主な成果（結果）、日本が果たした役割：

本会議には国内外から当初の予想を上回る参加があった。ますます多様化する社会に適応し、ヒトと地球環境に優しい不妊治療のあり方について考え、新しい知見を得る場となるとともに、活発な意見交換もなされた。最先端の研究を発表する場を提供しただけでなく、生殖医療の分野で世界を牽引する立場にある我が国の技術や新しい取り組みも紹介された。

(5) 次回会議への動き：

次回開催地は未定であり、国際本部で調整を進めている。

(6) 当会議開催中の模様：

以下がプログラムの概要である。

- ・ 5つの Keynote Lecture 「生殖免疫学」、「生殖医療の将来展望—ホライズンスキヤニング」、「出生率 - リプロダクティブヘルス」等
- ・ 3つの Eponymous Lecture 「POI（早発卵巣不全）および早期閉経における遺伝的要因」「FIGO de Wateville lecture（治療に関するエビデンスは実際の医療にどの程度活用されているか）」「MALE（男性の妊孕性と不妊）」、
- ・ IFFS President Invited Lecture
- ・ 10の Trilogy Session、8つの Symposium、4つの Panel Discussion、3つの Debate
- ・ 29の Sponsored Seminar（Morning、Luncheon ほか）
- ・ 本会議に先立ち、8つの Pre-Congress Course も開催された。

上記のさまざまな指定演題、セッションでは、妊娠や出産を支援するための医療技術やサービス、生殖に関する世界の状況、患者の視点に関する研究など、生殖医療の最新の進展に関する幅広いトピックが取り上げられた。

(7) その他特筆すべき事項：

他国との招致競争における、日本で生殖医学の国際会議を開催するメリットとして、日本には世界的に有名な生殖医学に関する研究者が多くおり、最先端の研究成果を発信できる点を挙げた。日本での生殖医学における研究の歴史は古く、先駆的な研究が行われてきたことから、その文化や歴史を世界にアピールするよう取り組んだ。

さらに、交通インフラが整備されアクセスが容易であるため、世界中からの参加者を呼び込めること、特にアジア地域の拠点としてアジアからの参加者を呼び込むことにより、国際的な共同研究の可能性が広がる点や、日本の文化や観光名所などを紹介し、国同士の文化を含めた国際交流の促進にもつながる点もメリットとして挙げた。

### 3 市民公開講座結果概要

- (1) 開催日時：2025年4月18日（金） 14：00～16：00
- (2) 開催場所：浜松町コンベンションホール
- (3) 主なテーマ、サブテーマ：「あなたの未来を開く生殖医療 広がる選択肢と可能性」
- (4) 参加者数：16人（一般市民・学生）

(5) 開催の意義：

生殖医療に関する市民公開講座は、正確な知識の発信のみならず、ライフプラン設計の支援、社会的理解の促進、倫理的対話の場を提供するものである。

(6) 社会に対する還元効果とその成果：

不妊治療・生殖補助医療をより身近に感じてもらえるよう、妊娠を希望する方や不妊治療を受けている方、またライフプランの参考にしたい方に向けて、専門家にわかりやすく解説を行った。

#### 4 日本学術会議との共同主催の意義・成果

日本学術会議は、我が国を代表する学術機関として、学際的な知の集積及び科学と社会の連携において中心的な役割を担っている。同会議との共同主催により、本会議は、国内外の研究者・専門家に対する信頼性と学術的正統性を高めるとともに、多様な分野からの参加を促進し、学際的かつ包括的な議論の場としての質的向上が図られた。

また、日本学術会議の有する広範なネットワークを通じて、海外の学術団体・国際機関等の連携も強化され、国際的なプレゼンスの向上とともに、我が国における学術成果の国際発信に大きく貢献した。

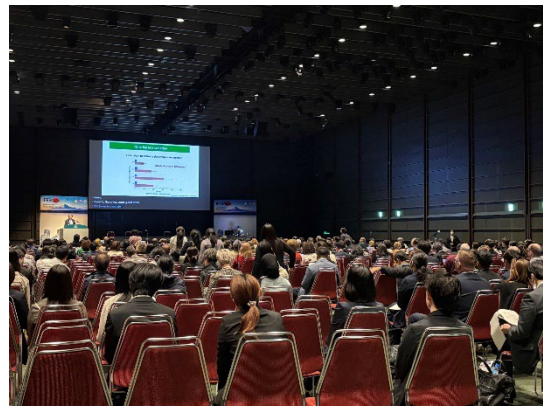
[開会式]



[ウェルカムレセプション]



[セッション風景]



[ポスター会場風景]



[閉会式]



[会場風景他]

